

# 平成30年度 鼓ヶ浦中学校 学校経営の改革方針

## ◇鈴鹿市のめざす子どもの姿

自己実現と人との協働により、豊かな未来を創る力を備えた鈴鹿の子ども

## ◇鈴鹿市の基本理念

鈴鹿を愛し、子どもの学びと安全安心を支え、絆で育む鈴鹿の教育

## ◇学校教育目標

生きる力(確かな学力, 豊かな心, 健やかな体)を身につけ、進んでやりぬく生徒の育成



## ◇めざす学校像

「来てよかった, 明日も来たい」と思う学校

- ①生徒たちが学び合う学校
- ②教師が専門家として学び合う学校
- ③保護者や地域が参加し, 協力し合う学校

## ◇めざす子ども像

- ①仲間とともに, 学び合い, 高め合う生徒
- ②たくましく, 未来を切り拓こうとする生徒
- ③主体的に学校・地域づくりに参画しようとする生徒

## ◇めざす教師像

- ①他者に学び, 多様性を尊重しようとする教師
- ②常に専門性を高めようとする教師
- ③ともに生きる社会をつくらうとする教師

重点目標	現状と課題	行動目標	具体的な行動計画	評価指標(数値目標) <>は29年度
組織力の強化と人材育成	<b>授業力向上 確かな学力の育成</b>	◎校内研修の充実と授業改善の推進 ◎研修会参加等で学ぶ機会の充実 ◎家庭学習の習慣化 ◎全国学力調査等の結果を分析・活用し, 確かな学力を育成	○すべての職員が, 授業公開を行い授業改善を進める。 ○公開授業研究会・研修講座に, 年間一人一回以上参加する。 ○家庭学習の強化月間に取組む。 ○課題に応じた授業, ワークシートの活用。	・授業公開年間1回以上実施, 校外の研究会1回以上参加 ・生徒アンケート <81%> 「先生はわかりやすく授業を工夫してくれる」→85%以上 ・家庭学習強化月間<1年72% 2年58% 3年53%> →目標達成人数80%以上 ・全国学力・学習状況調査→国語, 数学AB, 理科とも全国平均以上
	<b>組織力の向上 「チーム鼓ヶ浦」</b>	◎各推進委員会, 部会の機能強化 ◎働きやすい環境づくりの推進(教職員の総勤務時間削減の取組の推進) ◎若手教員・モデルリーダーの育成	○チーム「鼓ヶ浦」となるよう, リーダーの育成, 報・連・相の徹底。 ○若手教員の学ぶ場を設定し, ベテランの経験を伝達。 ○組織力をより一層向上させるとともに, 総勤務時間の縮減を図る。	・人事評価システムを活用した若手・モデルリーダー育成 ・教員アンケート <93%> 「この学校の先生は互いに信頼しあっている」→100% ・定時退校日2日, 部活動休養日週2日設定, 会議時間の短縮(60分以内) ・時間外労働時間月4時間削減 <56時間> ・80時間超時間外のべ75人 <117人> ・休職日数1日以上増加取得, 記念日年休取得促進
	<b>地域人材の発掘・育成</b>	◎地域との連携・協働によるボランティア定着。 ●地域学習や地域の貢献への意識はまだ低い。	◎地域づくりへの参加, 参画機会の拡大 ◎地域に貢献できる人材の育成 ◎防災を中心とした地域学習推進	○学校運営協議会で, めざす子ども像について共有する。 ○地域人材を活用した, 防災・環境の地域学習を実施する。

特色ある教育活動の創造	<b>ともに学び合う授業の創造</b>	○学び合う授業づくりの基本スタイルが全校的に実施できるようになってきた。 ●授業課題の質を高める取組がまだ不十分。 ●自分の考えを発表したりすることや人の話をしっかりと聴くことが苦手である。	◎新学習指導要領に基づく授業改善の推進 ◎課題の質を高める授業改善 ◎生徒教師間の聴き合う関係づくりの推進	○全職員が主体的な学びやグループ活動をおして授業改革を推進する。 ○年間3回, 公開授業研究会を開催し, 研究発信, 外部助言から改善する	・生徒アンケート <43%> 「授業中, 自分から進んで発言したり, 考えを発表できる」→60%以上 ・生徒アンケート <66%> 「自分から進んで勉強に取り組んでいる」→75%以上
	<b>一人ひとりに応じた支援体制の確立</b>	○生徒理解の取組が計画的に実施できている。(生活ノート, アンケート, 教育相談, 各部会等) ●すずかっ子ファイルやバンドスケールを全体で共有, 活用が十分でなかった。 ●不登校生徒の対応で一部改善もみられたが, 減少には至らなかった。	◎特別な支援が必要な生徒への細やかな支援体制の確立 ◎一人ひとりの安全安心な居場所づくり ◎関係機関との連携	○支援ファイル等を活用し, 定期的な会議開催と随時ケース会議を実施。 ○各学期1回教育相談期間を設定し, 相談活動を進める。 ○特別支援CDを中心に, 諸機関との連携を進め不登校の改善推進。	・生徒アンケート <64%> 「困ったとき, 学校の先生に相談できる」→75%以上 ・生徒アンケート <85%> 「先生はわたしのよいところを認めてくれる」→90%以上 ・不登校生徒数の減少→不登校数20人以下 <31人>
	<b>豊かな教育内容の創造</b>	○新しい教科道徳に向けて地域や保護者参加で公開授業を実施し, 理解を深めた。 ●学びに向かう姿勢を育てるために, 系統的なキャリア教育の充実が必要である。 ●ネットトラブルが増加しており, 情報教育, 人権学習の推進が必要。	◎キャリア教育の系統的な推進 ◎人権カリキュラムを活用した人権教育の充実 ◎道徳教育の充実と公開 ◎校区の連携による子どもの育成	○キャリアシートの作成, 活用。 ○ネットモラル学習を全校で定期実施。 ○家庭・地域と連携した道徳科の推進 ○地域, 各関係機関と連携した学習(教室・講座)を充実させる。	・生徒アンケート <69%> <80%> 「将来の夢や目標を持っている」→80%以上 「人が困っているときに進んで助ける」→85%以上 ・保護者アンケート <71%> 「学校は将来の進路や職業について適切に指導している」→75%以上

開かれた学校づくり	<b>情報発信と教育課題の共有</b>	○学校だよりやHP等により, 定期的に情報発信ができている。 ○学校行事への参加者が増えた。 ●開放デー, 特に授業参観への参加が少ない。	◎学校だより, CSだより, HP, 学校公開デー, 学校運営協議会等における情報提供, 熟議の実施	○学校通信, CSたよりを発行し, 保護者・地域に配布する。 ○学校運営協議会等で重点的な取組について, 具体的に発信, 協議する。 ○参加しやすい授業参観を工夫する。	・保護者アンケート <94%> 「子どもの様子を見る機会を十分に用意している」→95%以上 ・保護者アンケート <93%> 「通信, HP, メール配信等で, 情報を家庭に積極的に提供している」→95%以上
	<b>学校評価の活用</b>	○全国学力学習状況調査や生徒・保護者アンケートの分析結果や課題・取組などを学校だよりやHPなどで発信できている。 ○学校運営協議会で適切な関係者評価を実施している。	◎全国学力学習状況調査結果等を活用した教育課題の明確化 ◎学校運営協議会委員による学校関係者評価の実施	○全国学力学習状況調査を分析し結果を公表し, 改革方針を提示する。 ○生徒・保護者アンケート, 教科アンケートで関係者評価を実施し, 改善を進める。	・保護者アンケート <69%> 「学校の目指す方向を保護者の方々にわかりやすく伝え, その共有を図っている」→75%以上
	<b>保護者・地域との連携・協働</b>	○学校行事などへの地域・保護者の参加数が増加してきている。 ○地域との協働の取組(海岸清掃・避難訓練・老人会の交流等)が定着し, 深まりつつある。 ●PTAと地域の連携がやや弱い部分がある。	◎地域・保護者の来校機会の拡大 ◎PTA活動と学校運営協議会との連携・協働による鈴鹿型コミュニティ・スクールの推進	○生徒会が地域の行事にスタッフとして参加, 協働する。 ○大津波災害を想定した避難訓練を, 学校・保護者・地域とともに実施する。	・生徒アンケート <49%> 「地域で起こっている問題に関心がある」→70%以上